エコカード会員の皆様のご支援のおかげで

こんなことができました！

2014年度プロジェクトのご報告

より詳しい情報が掲載されています。
「コスモ石油エコカード基金」のホームページをぜひご覧ください。

http://www.cosmooil.co.jp/kankyo/

日本：アカマツの森 里山再生　特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

3回のエコツアーで落ち葉を集める柴かきを実施

長野県伊那市周辺のアカマツ林を、生態系の調査をしながらボランティアの手で整備し、アカマツ林の価値回復のノウハウを確立して、全国のアカマツ林回復に役立てるプロジェクトです。2014年度は、5、10、11月にエコツアーを開催し、アカマツ林に堆積した落ち葉や枯れ枝を取り除く「柴かき」や、育ちのよくない木を伐る除伐を実施しました。生物多様性調査では柴かきをしたエリアの方が、していないエリアより生物多様性が高くなったことがわかりました。

このために用意した大型の熊手でかき集める

日本：どんぐりの森 里山再生　特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

山火事跡に植林した苗木が育ち生きものが増えています

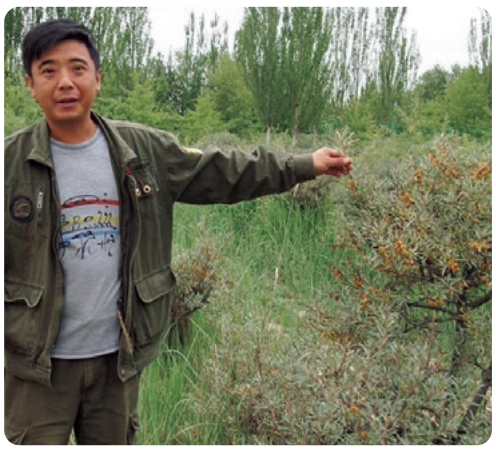
長野県東御市での山火事跡を、生態系の調査をしながら、ボランティアの手で里山に還すプロジェクトです。3年間の植林期間を終え、今は下草刈りをして森を育てています。8月に草刈りを実施し、苗木にからみついたツルを苦労して取り除きました。さらに信州大学中村寛志教授による生物多様性調査も実施。山火事跡の草原と森林の境界付近が最も多様性が高いこと、草原をすべて林に戻すのではなく適度に草原を残すことで、生物多様性の高い環境が維持できることがわかりました。

苗木にからみついたツルを外すべく奮闘

中国：シルクロード緑化　特定非営利活動法人 2050

沙漠化防止のために9万本の苗木を黄土高原に植林

シルクロードの地、中国の黄土高原で沙漠化を防ぐために、現地の気候に合う沙棘（サジー）の苗基地を作り、植林用の苗を供給します。2014年度は甘粛省蘭州市で30ヘクタールの土地に9万本を植林。苗基地は33ヘクタールに拡大し、沙棘や竹柳、コノテガシワなどの苗を生産しています。数年前に植えた沙棘は成長してたくさんの実をつけています。また、3年ぶりに日本からの植林ツアーを開催しました。中国各地からも多くのボランティアが集まり、植林が根付きつつあることが伺えました。


沙棘がたくさんの実をつけています

日本：種まき塾　有限責任事業組合 富良野種まき塾

9,575本の苗木を北海道の植林に提供

樹木の種や実生（種から発芽したばかりの木）を集めて成長させ、北海道内で植林する団体に苗木を提供しています。本来の植生回復のために、赤エゾマツやミズナラなど、地域に元々ある樹種を育成し、育苗体験や種まき体験も行っています。
2014年度は9,575本の苗木を提供し、育苗や種まき体験には延べ595人が参加しました。2011年に実施した『いのちとココロを育む「種まき塾の里親プロジェクト」』から2年半が過ぎ、8月には育った苗を植林するツアーも開催しました。

苗畑で育成中のミズナラ

中国：秦嶺（シンレイ）山脈 森林・生態系回復　西北大学生命科学学院

生物多様性が回復してキンシコウの減少が停止

絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど、希少動物の宝庫であるシンレイ山脈において、動物の移動を妨げる使われなくなった林道へ植林することで、生物多様性を取り戻すプロジェクトです。2014年度も西北大学学生と中学生、地域住民により5,600本を植林しました。これまでに、廃棄林道194kmのうち7割以上に約95,600本もの木を植え、80％以上の高い活着率を誇っています。西北大学の調査では、リスなど動物の行動範囲が広がり、キンシコウの減少に歯止めがかかったことがわかっています。

大きな穴を掘って苗木を植える

日本：東日本大震災復興支援 森は海の恋人　特定非営利活動法人 森は海の恋人

気仙沼で夏から冬にかけて自然体験を3回開催し、39人の子どもが参加

三陸沿岸は震災被害から急速に生態系が回復しつつありますが、復興に向けた護岸工事などによって自然が体験できる場所も減りつつあり、子どもの自然離れが深刻になっています。そこで、森の養分で育つ牡蠣養殖を題材に、自然を学び体験するプログラムを提供します。
7月から1月に夏は合宿で、冬は日帰りで計3回の自然体験を開催。牡蠣の養殖いかだを見学して食物連鎖を学び、自分で釣った魚を料理して食べることで、知識と体験から気仙沼の自然と人の関係を学びました。

和船に乗り、自ら櫂で漕いで牡蠣養殖いかだに向かう

日本：人と森をつなぐ　一般財団法人 C.W. ニコル・アファンの森財団

黒姫の「アファンの森」と東松島の「復興の森ツリーハウス」で自然体験

自然とふれあう機会の少ない子どもたちや東日本大震災で被災した子どもたちが、自然とふれあい、自分らしく生きていくためのきっかけになる機会をつくります。
長野県・黒姫の「アファンの森」で、盲学校・養護学校の子どもたち11人と保護者を招き、触覚や音を重視した体験学習を実施しました。子どもたちは木や草を触ったり、水の冷たさを感じたり、豊かな感受性を発揮しました。また、宮城県・東松島の「復興の森ツリーハウス」周辺の森と海で約40人に自然体験を開催しました。

全身で森を感じる（アファンの森にて）

パプアニューギニア：熱帯雨林保全　公益財団法人 オイスカ

国連開発計画（UNDP）からの追加支援が決定

パプアニューギニアの豊かな熱帯原生林と生態系を守るために、安定した食糧自給や現金収入につながる農業・畜産業の技術指導をしています。2014年度は支援する普及研修拠点が現地で法人格を取得しました。約3万ヘクタールの原生林を保護区として環境省に申請する予定です。また12月には、国連開発計画（UNDP）から本プロジェクトが高く評価され、追加の支援を受けることになりました。今後も農業指導や畜産飼料の開発、現地の資源を活用した特産品づくりなど、さまざまな研修を継続していきます。

現地スタッフによる住民への農業指導

日本：Meets Green 南三陸　特定非営利活動法人 キッズドア

中・高・大学生がfacebookで南三陸町の記事を発信

東日本大震災から自然環境との共生を軸とした復興に取り組む宮城県南三陸町で、地元と仙台市の中・高・大学生に地元企業や個人の取り組みを学ぶ機会を提供し、将来の復興を担う人材を育成します。2014年度は、8月と11月に2泊3日の合宿を実施、合計31人が参加しました。バイオガス施設でつくった液肥を使う田んぼや最終処分場がなく保管される大量の焼却灰など、複数の取り組みや課題を見学しました。最終日は町の人々も交えた発表会を行い、facebookに記事を投稿、世界に発信しました。

牡蠣殻の山を見学（左）／facebookページ（右）

ソロモン：熱帯雨林保全　特定非営利活動法人 エーピーエスディ（APSD）

レストランや市場の野菜くずを未利用資源として活用

ソロモン諸島にて、熱帯雨林保全のために安定した食糧自給や現金収入の確保をめざし、定置型有機農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2014年度は、州政府の職業訓練校として位置づけられ、現地スタッフが3人から5人に増えて公務員待遇となり、大工など新たなコースも設けられました。また、生産（教育）～物流～販売の流れを理解することにより、未利用資源として有効活用できるものを自ら考えて探し、動くようになりました。好評のハチミツは商品の種類が増えました。

野菜くずを集めて肥料にします

キリバス：南太平洋諸国支援　特定非営利活動法人 国際マングローブ生態系協会

海岸の浸食を防ぐマングローブ12,260本を植林

海水面の上昇や波による土地の浸食を防ぐためのマングローブ植林を行っています。キリバス共和国アノテ・トン大統領にも期待され、環境・国土・農業開発省とともに植林面積を拡大しています。現地ではマングローブ植林の重要さが認知され、地元では自主的な植林活動が広がっています。2014年度も、目標本数を大きく上回る12,260本のマングローブ種子を植えました。
また、植林するマングローブが根付きやすくなるように、種から苗木を育てるための苗畑をつくる取り組みをはじめました。

アナナウコーズウェイに沿って成長するマングローブ

日本：野口健 環境学校　特定非営利活動法人　セブンサミッツ持続社会機構

富士山で小中学生12人、白神山地で高校・大学生10人が環境学校に参加

環境について体験を伴った知識を持ち、メッセージを多くの人に発信、行動できる「環境メッセンジャー」の育成を目的に「環境学校」を開催します。2014年度は富士山と白神山地です。富士山では、エコ・クッキングやごみ拾い、青木ヶ原樹海のトレッキングをし、白神山地ではマタギに学びながら、胸まで水につかる沢登りに挑戦しました。参加者たちは、体験とディスカッションを通じて、環境について深く考えることができました。環境学校は2014年度で終了し、野口健氏の新たなプロジェクトが始まります。

野口健氏が自身の思いを子どもたちに話しました（富士山）

ツバル：南太平洋諸国支援　特定非営利活動法人Tuvalu Overview

海岸の浸食を防ぐマングローブ4,420本を植林、ごみを収集車3台分回収

南太平洋のツバルでは海岸の浸食を防ぐマングローブ植林と、住民向けにごみ問題の啓発活動を行っています。
2014年度はフナフチ環礁で昨年より約1千本以上多い4,420本を植林しました。また、新たにキオア島での植林要請があり現地調査を行ったところ、砂浜の浸食が進んでいることがわかりました。植林開始に向けて、住民への説明会と数十本のテスト植林を行いました。
清掃活動では、住民が積極的に参加するようになり、ごみ収集車3台分のごみを回収しました。

植えたマングローブの種が育って枝や葉が出ています

日本：ムササビとともに暮らす里山再生　特定非営利活動法人 都留環境フォーラム

ムササビが暮らしやすい森＝動植物が暮らしやすい森に向けた整備を継続

富士山の北東で野生動物がすむ里山をつくるプロジェクトです。2014年度は、植林を終えたエリアの隣で新たな森林整備を開始し、下草刈りや除伐の後、ムササビが好む実をつける大きな広葉樹（アラカシ2本、スジダイ2本、カンツバキ2本）を植えました。整備済みのエリアの調査では、昆虫や野生動物の痕跡が増えた反面、シカなどによる食害がみられました。また、森林整備で切り落とした枝を使った木質バイオマスペレットの研究を、山梨県森林総合研究所と共同で進めています。

巣箱から顔をのぞかせるムササビ